

ベツレヘムの星

西村昌能（京都府立洛東高等学校）

クリスマスは12月25日。その前夜祭である24日のクリスマスイブにはキリスト教徒でない人々も何かうきうきして聖夜をすごしています。その夜、街には星々が輝いています。クリスマスには星が付き物ですがそれはなぜでしょうか。

皆さんもご存じのように、幼子イエスがベツレヘムの馬小屋でお生まれになったとき、東方の三博士がイエスのお誕生を予言する星を西の空に見つけ、それに導かれるようにベツレヘムへ来て幼子を祝福したという物語があり、それが、クリスマスと星を関係づけているといえます。ところが新約聖書の中で「ベツレヘムの星」のことを書いているのはマタイ伝だけなのです。マタイ自身は下級の徴税使です。マタイ伝は、西暦八〇年代にシリア地方？の博識のユダヤ人の作らしいといわれています。



右は同志社大学の巨大松の木ツリー。

左は「東方三博士の礼拝」ロヒール・ヴァン・デル・ウェイデン

http://www.salvastyle.com/menu_renaissance/weyden.html より

ですから、ベツレヘムの星は少し慎重に考えないといけません。現在、「ベツレヘムの星」には、いくつかの候補があります。超新星爆発、彗星の出現、惑星の会合です。ベツレヘムの星がこれらの天体現象のどれかで

あろうと最初に推定したのはヨハネス・ケプラーでした。16 世紀から 17 世紀の初め、神の世界である夜空にとんでもないことが次々と起こったのです。まず、二回の「新星」（現在ではこれは超新星という太陽の何倍も重い恒星の最後の爆発現象であるとわかっています。）そして、大きな彗星の出現。蠍座に火星、木星、土星の 3 惑星が接近する三惑星の会合。これらの天文現象を観測したケプラーは特に三惑星の会合現象の周期を研究し、1600 年前にも見られたと言うことを見つけ、超新星爆発、彗星、三惑星の会合をベツレヘムの星の候補としたのでした。



牡羊座に輝く木星を示すアンティオキアの貨幣

では、本当の「ベツレヘムの星」とは何だったのででしょうか。その答えは「ベツレヘムの星」がマタイ伝にしか見つからないことにあるようです。最近アメリカ人のモルナー氏は、アンティオキア（シリア）で AD13 年から 14 年に鑄造された銅貨に牡羊座で月に木星が隠される様子が描かれている物がたくさんあることに注目し、天文計算してキリスト誕生した推定されるころに太陽の近く、月による惑星食があったことを示し、アンティオキアにいたキリスト教徒が、占星術で昼間の食を推算しマタイ伝に記述したという仮説を唱えました。当時アンティオキアには、ユダヤから離散した（ディアスポラ）ユダヤ人がたくさん生活していました。初期キリスト教は、そのようなディアスポラの民を教化して広がっていったのですが、その教化の一環として、この当時未知であった惑星食が利用されたのかもしれない。実際、ギリシア語のマタイ伝を見ますとベツレヘムの星の動きは当時の占星術の用語で書かれているのです。このようにベツレヘムの星はキリスト誕生時に夜空にみられたものではなく、あくまでも百年近くもあとから計算によって発見されたものだったのでした。

参考文献

“The Star of Bethlehem” The Legacy of the Magi M.R. Molnar 2000
Rutgers University Press